

## 1. 緒言

### 伝承遊戯の継承をめぐる現状

- 文化遺産化する伝承遊戯↔慢性的に不足する伝承に対する環境・経済的支援
- 当事者らによる自助努力と創意工夫によって何とか続けられている実態

さらに・・・

災害の頻発やパンデミックによる継承リスクの増加と多様化

これからの社会にふさわしい伝承のための理論と方法が必要

## 2. 研究目的

### 沖縄闘牛における遊び空間の継承・変容・創造の解明

- 戦後、沖縄の大衆娯楽として確立し、現在でもなお人気を博している

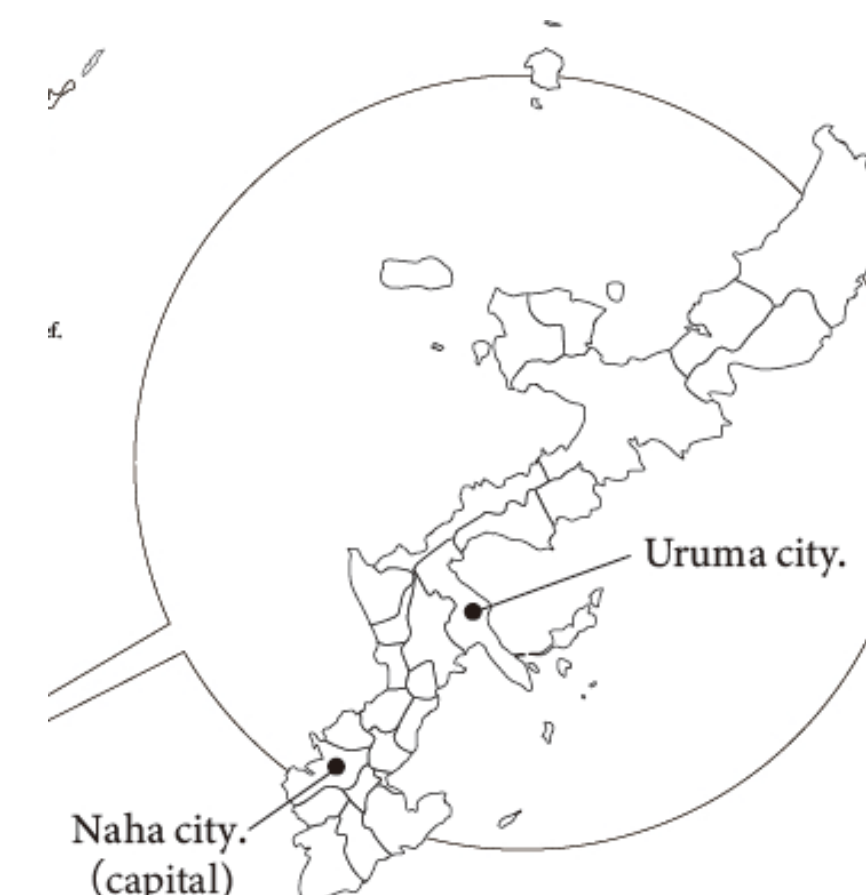


## 3. 方法

### 民族誌的調査：フィールドワーク、聞き取り、参与観察

沖縄県

調査内容



- 調査地：「闘牛のまち」うるま市、那覇市
- 調査回数：4回
- 調査対象：牛主、闘牛士、闘牛場、牛小屋

## 4. 結果

### 沖縄闘牛の近代化の特徴

- 商業化：入場料の徴収、新聞、ラジオによるスポンサーシップの登場
- 組織化：沖縄全島闘牛組合連合会の設立と全島闘牛大会の開始
- 大衆化：メディアの発達と共に農村娯楽から沖縄県の大衆娯楽に変容
- 環境：石川多目的ドームの完成により、安定して年間を通じた開催が可能



## 5. 分析と考察

### (1) スポーツ化変容

日常娯楽としての遊戯的自律性の保持とスポーツ化による競争の洗練化（文明化）

### (2) クラブ化

組合、組合員、ファンのそれぞれの自治を脅かさない相互扶助的な水平組織の確立

### (3) 遊びの倫理

継承に当たって、遊びを別の目的と関連させるのではなく、どこまでも趣味、遊び事に留まらせる態度

## 6. 結語

伝承遊戯の継承に当たって、沖縄闘牛が示唆することをまとめれば次の通りとなる。

- スポーツ化を通じた面白さの追求
- 伝承遊戯を通じた相互扶助組織の形成
- 余暇の確保

その地域において伝承遊戯が生き文化として存続しているということは、そこに社会的つながりが存在していることを意味する。伝承遊戯の継承はこの点において、単に文化多様性の維持のみならず、人々の健康とウェルビーイングの向上に関わっているとと言えるだろう。